

連載

- 10 世界のキーパーソン
- 11 国内人情情報
- 27 Book Reviewing Globe
- 40 テイレスニアスの食卓 ― 河井健司
- 42 大往生考
- 51 西風
- 63 交差点 ― 読者の声・編集者の声



米の国家管理を支えた食糧庁の亡霊が、今も役所の主流でのさばる異常。米価高騰には無為無策だが、天下り先や既得権益の死守には余念なし。政・官・JAの癒着が国民生活の混乱を招く構図は今後も続く。(114頁)

- 102 社会・文化 ● 情報カフェセル
- 104 「財務省解体デモ」はどこへ向かう
- 106 「小児科消失」という愚かな人災 ― 「子育て不安」を黙殺する厚労省
- 108 野放しのネット中傷リンチ殺人
- 110 政治家の「犬笛」に踊る群衆の狂気
- 112 鉄道模倣型の小さく深い世界 ― 国内愛好家を悩ます「二極化」
- 114 正成AI日本が弱い理由 ― 異能の革新者を排除する国柄
- 114 農水省農産局 ― 「令和の米騒動」諸悪の根源
- 84 金融の世紀 ― 黒木亮
- 92 皇室の風 ― 岩井克己
- 94 日本の科学アラカルト
- 96 新・大学評判記
- 98 本に遇う ― 河谷史夫
- 100 をんな千一夜 ― 石井妙子
- 118 マスコミ業界ばなし

3 連載「巻頭インタビュー」砂川浩慶 ― 民放テレビは「お取り潰し」の瀬戸際

6 米国「同盟放棄」の衝動

―― 突き放される欧州と東アジア

- 12 米国で「白人第一主義」が加速 ― トランプ「極右化」の損得勘定
- 14 欧州「再軍備計画」は実現するか
- 16 米露「ゼレンスキー排除」の謀略
- 18 WORLD ● 情報カフェセル
- 22 停戦を許さぬロシア「愛国主義」 ― 対米外交で苦渋のプーチン
- 24 レバノン「内戦」となるか ― 米国「ヒズボラ潰し」の前途多難
- 28 イラン核交渉「米中露の暗闘
- 30 インドを悩ます「四面楚歌」 ― 近隣諸国の憎悪と中国の計略
- 32 韓国次期政権は「中国傾斜」する ― 「米朝接近」の重い副作用
- 34 中国が進める外資企業「駆除」 ― エニコも「消滅」の可能性
- 36 対中強硬「台湾の大きな賭け
- 38 連載「現代史の言霊」4月の謝罪 ― ソ連「カチンの森事件」犯行自認(1990年)

米政権の外交中枢が動むのは、トランプへの追従ばかり。猛烈な勢いで「米欧切り離し」を進め、日米韓協力も「持続できるか不明」と言い放つ。内向きの王様の歎息を買う代償で、世界秩序が日ごとに傷を負う。(6頁)



いかに内閣不信任案を出さずに済ませるかに腐心する野党。少数与党の総理はまっぴらと「石破降ろし」が起きない自民党。権力闘争も本気の論戦もない低温・低次元の国会が、政治家の止まらぬ劣化を象徴する。(48頁)

- 44 政治 ● 情報カフェセル
- 46 日本で「極右政党」は台頭するか ― 「高市新党」への幻想と現実
- 48 与野党合作の「石破延命
- 52 連載「政界スキャンダル」商品券10万円「何が悪い
- 54 公明党でも「政治とカネ」疑惑
- 56 憲法改正「発議」の現実味
- 58 新連載「新・危機管理」のウハウハウマーク・ケルトン(米CIA元副局長)

- 64 沈む「トランプ相場」のこの先 ― マネーの世界的迷走に要注意
- 66 住友商事「商社ドン尻」は未永く
- 68 役立たず「外国人社長」に頼るな
- 71 連載「クローズアップ」
- 72 連載「企業研究」スズキ
- 76 信用金庫「大量死」が始まる ― 「金利ある世界」で苦境鮮明に
- 78 経済 ● 情報カフェセル
- 82 連載「地方金融の研究」福島県商工信用組合 ― 須佐「族」強「強」でモラル崩壊
- 86 トヨタ下請け「事故続発」は必然 ― グループを蝕む危機管理不全
- 88 参天製薬「視界不良」の前途 ― 「点眼薬の雄」が抱える三重苦

トップ君臨40年以上。中興の祖は多くの「負の遺産」も残した。他社も羨むインドでの成功は、「一本足経営」の不安をはらむ。政治への長年の介入は、癒着と不正の疑惑が尽きない。「脱カリスマ」は進むのか。(72頁)

